

<学校関係者評価委員会>

1. 日 時： 令和 7 年5月28 日(水) 第 7 回学校関係者評価委員会開催
2. 出席者： 評価委員 10 名 学校職員 11 名
3. スケジュール
 - 1)挨拶
 - 2)学校自己評価 報告
 - 3)質疑応答
4. 評価委員からの主な意見

学校運営	入試制度が変更になったことで教育がどう変化していくのかを注視する必要がある。 社会人経験者が入学してきている。少子化の時代、社会人経験者を看護師として育てていくのは大事な視点である。
教育活動	学校のスタッフ、校長、副校長を含めて、非常に熱い思いが学生に伝わり、学生からよい評価をいただいているのかと思う。 学生は、礼儀正しく元気に実習をしている。
学修成果	国家試験について、全国平均を上回る 98.1%というのは、すばらしい結果だったのではない かと思う。全国平均よりも高い国家試験合格率が出せたのは、先生方が非常に粘り強く学生をサ ポートした結果だと思う。
学生支援	入学してくる学生は、多様性の中で生きてきている。どう興味をもってもらおうかということを 考え、教員が日々活動しているというのがよく分かった。 学生のときから社会人基礎力を育成していただくとイメージがつくのではないか。
教育環境	看護学校で一番大変なのは実習先がないこと。こちらは、グループ病院に実習生を受け入れて いただけている。実習病院には、卒業してここで働きたいと思えるように、実習生を温かく受け入 れていただきたい。

5. 総括及び次年度の課題

学校評価委員からご意見を参考に、引き続き教育環境を整えつつ学修成果をあげられるよう学生をサポートしていきたい。入試制度の変更はあっても、学生の成績評価の水準を落とさないよう、教育方法の見直しが必要であるとする。